

圏論による J.デリダの脱構築と M.フーコーの系譜学

—随伴定理を援用して—

大山 智徳（放送大学）

発表要旨：

本報告の目的は R.バルトの記号論、J.デリダの脱構築と M.フーコーの系譜学を現代数学である圏論に翻訳＝mapping することにより圏論的記号論とでもいうべき記号論の新しい展開を試みることにある。その方法として、まず、R.バルトの記号論の基本原則であるデノテーション、メタ言語、コノテーション、レトリックの体系を圏論の随伴定理に翻訳＝mapping する。その後、J.デリダの脱構築と M.フーコーの系譜学をそれぞれ随伴定理に翻訳＝mapping していく。その結果として、これらの三つの概念それぞれの可換図式を描くことが可能となる。この可換図式からの考察により R.バルトのレトリックの体系はメタ言語とコノテーションの合成射、J.デリダの脱構築は差延と散種の合成射であり、M.フーコーの系譜学はいわば、カタストロフィの系譜学であるとの解釈を得ることができた。一方、M.フーコーの系譜学はカタストロフィの系譜学とでもいえる系譜学であるのに対し、救済の系譜学とでもいえる新しい射が生成することがわかった。さらに、可換図式よりこれらの関係はメタ言語と差延とカタストロフィの系譜学が同じ射の表現であり、また、コノテーションと散種と救済の系譜学が同じ射の表現であることを示していることが帰結された。以上により、R.バルトのレトリックの体系、J.デリダの脱構築と M.フーコーの系譜学の圏論的記号論とでもいうべき新しい展開がなされた。これは、圏論と記号論との創造的かつ魅力的な出会いであり、ある意味、記号論の脱構築の試みでもある。こうして本報告の目的は達成された。

文献

- Barthes,R.,1967,*Système de la Mode*,Seil.(=1972 佐藤信夫訳『モードの体系』みすず書房。)
- Derrida,J., 1967, *De la grammatologie*, Minuit.(=1972/1974), (=1972/1974, 足立和浩訳, 『根源の彼方—グラマトロジーについて(上・下)』現代思潮社。ほか。
- Foucault,M., 1971, *Nietzsche, la généalogie, l'histoire*,Hommage à Jean Hyppolite, Paris,P.U.F., coil. 《Épiméthée》pp.145-172. (=1999. 伊藤晃訳「ニーチェ、系譜学、歴史」『ミシェル・フーコー思考集成IV 1971-1973 規範 社会』筑摩書房。11-38.)
- Mac Lane, S., 1998, *Category for the Working Mathematician*,Berlin: Springer-Verlag (2nd edition).(=2013, 三好博之・高木理訳『圏論の基礎』丸善出版。)
- 丸山善宏, 2023, 『万物の理論としての圏論 構造としての世界とその認識』青土社。
- 大山智徳, 2021, 「『算額』と真善美について—圏論と記号論を援用して」群馬県和算研究会編『和算ジャーナル』5:4-7.
- Lacan, J, M, É., [1955]=1966,*Le séminaire sur <<La Lettre volée>>Écrits*.Edition du Seuil,(佐々木孝次訳, 1972,「<<盗まれた手紙>についてのゼミナール」5-80.『エクリ1』弘文堂。